

昔話におけるオノマトペとお話づくり

三木 麻子

MIKI Asako

本学で「認定絵本士養成講座」がスタートして2年目となる。本稿は、絵本について深く学ぶことができる「認定絵本士養成講座」と、それに併行して筆者が行っている「子ども学ゼミC」(保育者としての資質を高める絵本研究とそれを生かしたお話づくり)のなかで取り上げた、昔話絵本とオノマトペについての報告である。

キーワード: 認定絵本士養成講座 昔話、桃太郎、オノマトペ絵本、お話づくり

1. はじめに

認定絵本士養成講座については、2021年(令和3年)1月発行の認定絵本士養成講座のパンフレットに、「認定絵本士養成講座は、絵本専門士委員会(事務局: 国立青少年教育振興機構)が、大学、短期大学および専門学校等(以下、「大学等」という。)と連携し、『認定絵本土』を養成する新たな指導者養成制度です」と紹介されている。

また、受講生は、「認定後は、講座で学んだ幅広い知識や技能等を活かし地域や職場で実際に絵本を使って、その魅力や可能性を伝え地域の読書活動を充実させる役割が期待されます」とも記され、認定絵本土の活動を通して実務・実践経験を積むことで絵本専門士委員会から資質、能力がふさわしいと認定されれば子どもの読書活動推進の中心を担う「絵本専門士」と認定されることもできる。

つまり、絵本について深く学ぶことで、その良さを活用した保育・教育活動ができ、それが子どもたちの読書への興味を引き出す結果ともなるのである。保育者をめざす子ども学科の学生にはぜひ取得してほしい資格である。

しかし、実際に受講した学生によれば、資格のための学びというより、絵本を学ぶことで絵本がさらに好きになる、楽しい講座であったようである。それは、30科目を担当いただく講師の多くが、なにより絵本の魅力を強く感じ、その楽しさを伝えようとするからであろう。

楽しく学ぶなかにあるさまざまな気づきが、学生の絵本をもっと知ろうとする好奇心に繋がっている。

今回のテーマを考えるきっかけも、講座のなかの「知識を深める」>「絵本の体系・ジャンル」>「さまざまなジャンルの絵本②(昔話、童話を基にした絵本)」の科目を筆者が担当する中で、学生の発した「桃太郎の桃は、なぜ『どんぶらこ、どんぶらこ』と流れるのでしょうか」という問いかけにあった。

一方で、筆者の担当する子ども学ゼミCでは、「絵本とお話づくり」をテーマとしている。動物の本・家族の本などの主題を決めてさまざまな絵本に触れ、それを広く、深く読むことで、子どもたちを前にして、自作のお話を語れるような語彙力、想像力、構成力を培うことが目標であり、また、調べた絵本を比較して子どもと読みたい絵本を探すという目的も設定している。その主題のひとつにオノマトペを活かした絵本、音の楽しさを知る絵本がある。

従来、「言葉を楽しむ絵本」としていた主題が、「ももたろう」の桃が流れる音のさまざまを紹介することで、「絵本のオノマトペを探す」、「オノマトペを活かした絵本」「オノマトペを活かしたおはなし」に明確化されて、調査・創作することとなった経緯と結果を報告する。

2. 桃太郎絵本

昔話「桃太郎」が絵本化された歴史は古い。国文学研究資料館「日本古典籍総合目録データベース」によれば、「絵本桃太郎咄」(一声齋/芳鶴(歌川/芳鶴))画を筆頭に51件の「桃太郎」がヒットする。筆頭の

「もゝ太郎」は弘化（1845-1848）年間の刊であるが、江戸期の本はひとまず措く。

昭和期からの現在も手に取ることのできる絵本を対象としたい。本学の付属図書館には、32種類の桃太郎絵本が所蔵されるが、年代の分かる最古のものは、1965（昭和40）年の、福音館書店刊、松居直文、赤羽末吉画による「ももたろう」である。

インターネット検索によれば、広島市立図書館¹に桃太郎絵本のリストを発見することができる。同図書館のホームページ（以下、HPと表記する）に資料4. 読みくらべ用図書（団体貸し出し用）リストがあるが、「あかずきん」「かちかちやま」「さるかに」「さんびきのこぶた」「したきりすずめ」「ねむりひめ・いばらひめ」「はなさかじい」「ももたろう」と挙がるリストで、88種の「ももたろう」がリストアップされている（2021年1月31日現在）。

また、岐阜県図書館²でも、HPに児童図書研究室コーナーがあり、資料紹介>読みくらべ絵本に、昔話を中心に、絵本が比較できる読みくらべ絵本リストがあり、2017（平成29）年12月現在、34種類の昔話リストの中に「ももたろう」73種類掲載されている。

さらに、静岡県立中央図書館³でも、HPの子ども図書研究室>子ども図書研究室展示リストに、展示資料としての図書リストが挙げられるが、サイト内で一番掲載冊数が多かったものは「桃太郎の絵本」（2015年6月）64種である。

この三図書館は、たまたま「桃太郎・絵本・リスト」の検索でヒットしたものであるため、各公共図書館で、子どもの読書活動推進にさまざまな工夫がされ、昔話絵本の収集も行われていると思われる。

本稿では、本学所蔵絵本を中心に比較検討していくが、絵本の出版年については、上記の各リストを参照したところがある。

3. 桃の流れる音

桃太郎の「どんぶらこ」については、講義の中で、辞書的な意味をいくつか紹介した⁴。

【どんぶら - こ】

〔副〕 重みのある物などが、水に浮き沈みしながら漂うさま。どんぶりこ。「大きな桃が一、一と流れてきました」 『デジタル大辞泉』

【どんぶら - こ】〔副〕

(1) 物が水の流れのままに浮きつ沈みつして、漂いゆくさまを表わす語。どんぶりこ。

〈(2) 以下は省略。〉 『日本国語大辞典』

『デジタル大辞泉』の用例はまさに「ももたろう」の例であるが、出典表記はない。また、『日本国語大辞典』では(1)の例が該当するが、用例は「歌舞伎・忠臣蔵年中行事・四月」の「桐の箆笥は笹くれて、浪に漂ひどんぶらこ、金の火鉢はいびつ形なり」の1877（明治10）年のものである。

『日本方言大辞典』では、「どんぶらこ」は神奈川県川崎市では「ぶらんこ」をいうことを記すとともに、「ものが川を流れて来るさま どんぶらこどんぶらこ」の方言として、

青森県三戸郡083 つんぶらつんぶら

岩手県気仙郡101 つんぶくつんぶく

つんぶくつんぶく

の例が挙げられている。

それでは、絵本の中では、桃が流れる音はどのように表現されてきたのだろうか。「ももたろう」絵本のなかで擬態語がどのように表現されるか、比較する中で、冒頭シーンにはいくつかのパターンと擬態語があることに気づいた。

それを表にしたものは次々頁〈表3〉にあげる。

それに触れる前に、本学の所蔵絵本をリストアップするとき、絵本に出版年が書かれていないものがあった。図書館蔵書は、帯やカバーなどは基本的には外して装備するので、出版年や価格が書かれていたものが外れている可能性がある。しかし、本学蔵書で出版年代が不明のものは、いわゆるボード絵本で、比較的安価で出版されたもので、作者表記も不明のものもあった。まずそれらを、〈表1〉に示した。

¹ 広島市立図書館 リスト

https://www.library.city.hiroshima.jp/kodomo/reading/library/images/list_08.pdf

² 岐阜県図書館

<https://www.library.pref.gifu.lg.jp/user-guide/floor->

[guide/various-corners/children-book-laboratory/](https://www.library.city.hiroshima.jp/kodomo/reading/library/images/list_08.pdf)

³ 静岡県立中央図書館

https://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/data/open/cnt/3/55/1/list_momotaro.pdf

⁴ JapanKnowledge (©Shogakukan Inc.)による。

〈表1〉 出版年次未詳本

番号	作品名	著者	画家	出版社	初版 (推定)	値段 (円)
1	トッパンのこども絵本 母と子のシリーズ 61 ももたろう		谷口健雄	フレーベル館	1962	200
2	日本昔話えほん全集	豊田次雄	山本忠敬 岩木康之亮	ひかりのくに	1978 /1971	—
3	Picture Book	童画研究会編		きくや書店	1974	200
4	ピッコロえほん	北村芳子	長谷川露二	栄光社	1975	200
5	ひかりのくに 声のえほん 40		関根栄一／脚色 東映動画／作画	ひかりのくに	1976	300
6	ママとよいこのえほん			ふくや	1980 受 入	200

〈表1〉にあげた絵本の出版年は、本学所蔵本では未詳であるが、注1の岐阜県図書館のリストには〈表1〉に書き入れた年代が書かれている。番号2の本は岐阜県図書館リストでは1971年であるが、注1の広島市立図書館リストでは1978年とある。購入年次に拠って、本の版が異なることもあるので、正確な初版年は未詳であるが、これらのリストによれば、番号1の「トッパン子どもの絵本」が1962年とある以外、同1～5は1970年代に出版されている。因みに国立国会図書館の検索では、同1とおぼしい絵本は、「国立国会図書館オンライン」版によれば、小林俊一文、谷口健雄絵、出版社:トッパン、刊年1960(昭和35)年とあるが、(トッパンのこども絵本4)とあり、シリーズとその番号が異なっている。また、同検索でヒットする宮城県図書館所蔵本のデータは(トッパンのこども絵本4)であるが、谷口健雄絵、フレーベル館刊、価格100円と表示され、作者の表記はないので、本学蔵書や岐阜県図書館、広島私立図書館蔵本に近い形とみえる。

また、番号6は、桃太郎リストのある三図書館にはみられず、「ママとよいこのえほん」「ふくや」「ももたろう」では、国会図書館の検索でもヒットしない。本学ではこれらのボード絵本を1980(昭和55)年にまとめて受け入れているので、やはり60～70年代の出版物とみられるだろうが、詳細は不詳である。

これらの絵本は、子どものための絵本の普及を目的に、何度も刊行されていると思われる。現代の絵本と比較すると色彩のコントラストが強すぎるように見えるが、子どもの娯楽や絵本の普及に一定の役割を果たし続けていただろう。

本学所蔵の「トッパンのこども絵本」には、シリーズ紹介がされていて、

- 62 したきりすずめ
- 63 ぶんぶくちゃがま
- 64 いっすんぼうし
- 65 うらしまたろう
- 66 三びきのこぶた
- 67 しらゆきひめ
- 68 たのしいてすと
- 69 あいうえお
- 70 たのしいあそび

とあって、同シリーズが昔話と知育に工夫していることがみえる。

次に、番号1～6の絵本の桃の流れる音を〈表2〉に挙げた。

〈表2〉

番号	作品名	もも
1	トッパンのこども絵本	×
2	日本昔話えほん全集	どんぶらこ どんぶらこ
3	Picture Book	どんぶらこ どんぶらこ
4	ピッコロえほん	どんぶり こっこ どんぶりこ
5	ひかりのくに 声のえほん 40	×

6	ママとよいこのえほん	どんぶらこ どんぶらこ
---	------------	-------------

番号4「ピッコロ絵本」の「どんぶり こっこ どんぶりこ」に変化がみられるものの、同1や同5「声のえほん」と謳われたひかりのくに版には、桃の流れに関する擬態語はない。

番号5は、「シートからお話がとびだす声のえほん」というソノシート付きの、当時としては新しい形態の絵本であり、

むかし むかし
 やまで しばかり おじいさん
 ぺき ぼき ぺきんこ ぽきんこ
 むかし むかし
 かわで せんたく おばあさん
 ぱちゃ ぴちゃ ぱちゃんこ ぴっちゃんこ

と、描写に擬音語をとり入れた工夫がみられるものの、これらの絵本は、おはなしを広く普及させることが念頭に置かれているように見え、ストーリー展開もあらずじをなぞっている感がある。

番号2の豊田次雄による文は、
 むかし、むかし、それは、ずっとおおむかし。
 ある ところに、じいさまと ばあさまが なかよく すんで いました。

じいさまは やまに しばかりに でかけました。
 「もうすぐ さむい ふゆが くるからのう」
 と、うめぼしべんとうを もって でかけました。
 その るすの まに ばあさまは かわへ せんたくに きました。

「きょうは よい てんきじゃ」
 じゃぶじゃぶ じゃぶじゃぶ……
 ——と、 かわかみから どんぶらこ、どんぶらとなにか ながれてきました。
 「ひゃあ こりゃ まあ おおきな もものみじゃ。」
 と、ばあさまが びっくり しました。
 「こちらへ こい、こちらへ、こい」
 と、ばあさまは、じゃぶじゃぶと みずと いっしょにかきよせると、その ももをひろいあげました。
 「ほう おもい、おもい。」

と、語り口調を伝える文体であるが、「寒い冬が来る」と断るところは、「しばかり」が冬の燃料集めのように受けとられる恐れもある。「しばかり」は、洗濯と同じように日常生活に必要な仕事であり、火を熾すための燃料としての小枝を集めることというのが本来の意味であろう。また、「うめぼしべんとう」がユニークである。

それでは、この6冊以外の著者・刊行年次が判明するものを〈表3〉に示す。

〈表3〉

番号	作品名	著者	画家	出版社	初版	もも
1	ももたろう	松居 直	赤羽末吉	福音館書店	1965	つんぶく かんぶく つんぶく かんぶく
2	むかしむかし絵本 ももの子たろう	大川悦生	箕田源二郎	ポプラ社	1967	つんぶらつんぶら
3	日本のむかし話 ももたろう	松谷みよ子	瀬川康男	講談社	1970	どんぶり かっしり つつこんご どんぶり かっしり つつこんご
4	フレーベルのえほん109 ももたろう	君島尚子	武井武雄	フレーベル館	1976	つんぶら つんぶら
5	絵本ファンタジア にほんのはなし ももたろう	たけもとかずこ	ありがしのぶ	コーキ出版	1977	つんぶら かんぶら つんぶら かんぶら
6	ももたろう	代田昇	箕田源二郎	講談社	1978	つんぶか かんぶか つんぶか かんぶか つつこんこ

7	にほんのむかしばなし2 ももたろう	こわせたまみ	赤坂三好	チャイルド本 社	1979	どんぶら どんぶら すっ こっこ うまい ももなら こっちゃ こい つんぶら つんぶら すっこっこ ま ずい ももなら あっちゃ いけ
8	ももたろう	舟橋克彦	石倉欽二	講談社	1979	どんぶらこっこ すっこっ こ
9	講談社の絵本 ももたろう	かつおきんや	太田大八	講談社	1979	ドンブラリンコン ドンブ ラリンコン
10	講談社の幼稚園百科 ももたろう	西本鶏介	森やすし・伊藤 主計	講談社	1983	つんぶか つんぶか
11	小学館の育児絵本 ももたろう	岩崎良信	矢崎節夫	小学館	1983	どんぶらこ どんぶらこ
12	二どひらくむかしばなし絵本 ももたろう	高橋宏幸		岩崎書店	1983	どんぶらこっこ どんぶら こっこ
13	にほんむかしばなし ももたろう	岩崎京子	宇野文雄	フレーベル館	1984	つんぶく かんぶく つん ぶく かんぶく
14	小学館のアニメ絵本1 日本のむかし話 ももたろう	矢崎節夫	高橋信也・大野 豊・井上智	小学館	1986	どんぶらこっこ ずっこっ こ
15	アニメむかしむかし絵本 ももたろう	西本鶏介	高橋信也	ポプラ社	1990	つんぶらこ つんぶらこ どんぶらこ どんぶらこ
16	たのしいしかけえほん ももたろう	舟橋克彦	西村達馬	金の星社	1997	どんぶらこっこ すっこっ こ
17	はじめてのめいさくしかけえほ ん1 ももたろう	La Zoo	さいとうまり	学研	1998	どんぶらこっこ どんぶら こ……どんぶらこっこ ど んぶらこ
18	はじめてのめいさくえほん14 ももたろう	いもとようこ		岩崎書店	2001	どんぶらこ どんぶらこ
19	新・講談社の絵本3 桃太郎	千葉幹夫	齋藤五百枝	講談社	2001	どんぶりこっこ すっこっ こ どんぶりこっこ すっ こっこ
20	てのひらむかしばなし ももたろう	長谷川摂子	はたこうしろう	岩波書店	2004	どんぶらこ どんぶらこ
21	子どもとよむ日本の昔ばなし 13 ももたろう	長崎桃子 小澤俊夫	小林豊	くもん出版	2006	ごっくり ごっくり
22	だれでも知ってるあの有名な ももたろう	五味太郎	デザイン・ももは らるみこ	絵本館	2007	どんぶらこ どんぶらこ
23	日本むかしばなし ももたろう	いもとようこ		金の星社	2008	どんぶらこ どんぶらこ

24	日本名作おはなし絵本 ももたろう	市川宣子	長谷川義史	小学館	2010	どんぶらこ どんぶらこ
25	桃太郎が語るももたろう	クゲユウジ	岡村優太	高陵社	2017	それ、どんぶらこ また どんぶらこ
26	音で読む昔ばなし1 ももたろう	石上志保・オノ マトベ監修	中山信一	文饗社	2020	どんぶらこ どんぶらこ

〈表3〉

桃が流れる音の多彩さは、表に掲示したとおりであるが、「どんぶらこ」以外に、岩手県気仙郡の方言という「つんぶくつんぶく」を採る番号1の松居直文（福音館書店）の「つんぶく かんぶく つんぶく かんぶく」をはじめ、同13も同じオノマトペを用いる。

「つん……」から始まる、その変形が番号2・4「つんぶらつんぶら」、同5「つんぶら かんぶら」・同6「つんぶか かんぶか つんぶか かんぶか つっこつんこ」、同10「つんぶか つんぶか」、同15「つんぶらこ つんぶらこ どんぶらこ どんぶらこ」にある。

番号3の松谷みよ子文（講談社）の「どんぶり かつしり つっこんご どんぶり かつしり つっこんご」も流れ方の変化を捉える、擬態語が繰り返されて、唱えたい要素が込められている。

桃が流れる描写は、「おおきなかぶ」のように場面ごと繰り返されるものではないが、日本人の多くが「もも」といえば「どんぶらこ」という擬態語を思い浮かべるように、このオノマトペの印象は強い。

語られる昔話では、定番化したストーリーが簡素に伝わるので、

おじいさんー山ーしばかり

おばあさんー川ーせんたく

桃…どんぶらこー桃太郎の誕生

と続けられるものであるが、絵本に描かれる昔話は、作者（再話者）の繊細な工夫が随所に活かされることになる。

特徴的なものを挙げておきたい。番号21の小沢俊夫・長崎桃子再話（くもん出版）である。「長野県で語りつがれていた『桃太郎』（『日本昔話通観 12 山梨・長野』同朋舎収録）をもとに再話しました。」とあり、長崎氏の「再話者のことば」のなかにも「長野県下水内郡で語られた昔話」であることが記されている。伝承のままの擬音語が残されたという「ごっくりごっくり、ながれてきました。」「ぶいこぶいこと、ながれてきました。」は新鮮である。

また、伝承の枠を残した形という点では、番号2の、大川悦生文（ポプラ社）も同様で、

じろも さぶろも おはるも こい。

いろりさ きて、 火っこ あたれ、

おらが わらして あった とき、

まいばん おらの じいさまやら ばあさまやりに
きかされた ももの子むかしを かたるから……

とんと むかし あったそうな。

と始まっている。

また、番号21が、二種類の擬音語を持つのは、流れてきた桃におばあさんが呼びかけるからである。おばあさんは、「実のあるももなら、こっちへこい。実のないももは、あっちへいけ」と言ったので、ももは「ぶいこぶいこ」と寄ってくるのである。

このおばあさんが桃に呼びかける歌は、いくつかの絵本にみられる。番号21では、おばあさんは流れてきた桃に呼びかけるだけであるのだが、その呼びかけの前に、流れてきた桃をおばあさんが食べてからおじいさんに持って帰ろうと、よい桃がくるように歌う型（1、2、10、15）もある。

番号21と同じく桃を食べないのは、同3のおばあさんで、「どんぶり かつしり つっこんご」とながれてきた桃に「おらえの いえのたからなら こっちさこう むこうの いえの たからなら あっちさ いけ」と歌い、桃は「どんぶり かつしり つっこんご」とよってきて、おばあさんの手の中へ「こつとり」と入るのである。ひとつの桃を大切に取込んだおばあさんが見えるような音である。

番号6の代田昇文（講談社）も「とんと むかしのことだけな。」の語りだしを持ち、「じっさまは よっこら よっこら よっこらしょと やまへ しばかりにでかけた。ばっさまは、これまた とんこら とんこら とんこらさと かわへ せんたくに でかけたそうな。」おばあさんは、「おらえの ももなら こっちさ くるはず。よそんちの ももなら あっちさ いく はず」と桃を呼び、洗濯の擬音語も「ざんぶり じゃぶじゃぶ ざんぶり じゃぶじゃぶ」と、

生き生きとしたオノマトペが語られている。

番号3、6、21では、「おらえのいえのたから」「おらえのもも」「実のある」などの言葉で、おばあさんの家で育つ桃太郎を予見させる。

番号5の竹本員子文（コーキ出版）ではおばあさんは「うまい ももは こっちゃ こい、にがい ももは あっちゃいけ」とうたう。

番号7、こわせたまみ文（チャイルド本社）では、「どんぶら どんぶら すっこっこ うまい ももなら こっちゃ こい つんぶら つんぶら すっこっこ まずい ももなら あっちゃ いけ」と、おばあさんの言葉とは独立して描写されている。

番号20、長谷川撰子文（岩波書店）では「うんまい、ももっこ こっちゃこい にんがい ももっこ あっちゃいけ」とあり、同24、市川宣子文（小学館）は、「あまいももなら こっちゃ こい すっぱいももなら あっちゃいけ」とあって、これらは、

「う（ん） まい・あまい」

「に（ん） がい・まずい・すっぱい」

という対比で、よい桃を求めるが、同9、かつおきんや文（講談社）は、「ドンブラリンコン ドンブラリンコン」と流れてきおった桃に「でっかいももよ、こっちこい。こっち こい」といい、対比するものはない、などおばあさんの歌もさまざまである。

番号1・2・10・15では、おばあさんは流れてきた桃を食べた上で、同1では、「うーまい ももっこ、こっちこい。にがい ももっこ あっちゃゆけ」という。

番号2でも、「うまいももっこ こっちゃこい にがいももっこ あっちゃいけ」といって赤い大きな桃を得、同10、西本鶏介文（講談社）でも「うまい もも、こっちゃ こい。にがい もも あっちゃ いけ。」いうたら、でっかい ももが ながれてくると描かれる。同15（ポプラ社）、も同10と同じく西本鶏介が文を書いているためか、「うまいももっこ こっちゃこい にがいももっこ あっちゃいけ」という歌は同じものである。

このように、桃の拾い方にも 食べたあとで一食べないで、があるので、桃が流れている個数もさまざまになる。

以上の絵本は、伝承を活かしたもの、たくさん絵本が出版される中で類型化したものなどであるのだが、

桃の流れ方やおばあさんの歌などからは、番号3、6、21が子どもと読んでみたい絵本と思われる。

ちなみに、桃太郎が鬼退治にいききっかけが、番号1・6ではカラスが、同2ではとんびが、鬼の悪行を知らせることになっている。

また、番号3と6の桃太郎は、元気なよい子ではなく、怠け者として描かれる。犬・雉・猿を手下にするやりとりも、「ひとつくされ、おとします」に対して、「ひとつはならん、はんぶんやる。」と答えるのが、同3と6である。

番号21のようにどこも明記されないまでも、さまざまな地方の伝承を伝えて絵本化されていることをうかがわせる。

昔話絵本が、伝承を重んじるか、物語の普及をめざし分かりやすい言葉で伝えようとするか、また、そのパロディを作ってクスリとさせたり、残酷な結末を回避させたりするか、というのは、作者（再話者）の個性が反映される場所であるので、読者や子どものためには、読み手のほうも、昔話絵本の選択には、このようなさまざまな違いに眼を向けた上で、自身の判断を持つことが必要になる。

4. オノマトペの活かし方

さて、3. 桃の流れる音の調査と並行して行ったのが、子ども学ゼミCの「オノマトペ絵本」についての学生の調査である⁵。

学生が「オノマトペ絵本」として選んだのは、

1. 『もじゃもじゃ』 せなけいこ（福音館書店 1978年）
2. 『どどどどど』 五味太郎（偕成社 1993年）
3. 『せっけんつけて ぶくぶくプワー』 岸田衿子、山脇百合子（福音館書店 1999年）
4. 『ぴんぼーん』 山岡ひかる（アリス館 2011年）
5. 『いろがみびりびり ぴったんこ』 松田奈那子（アリス館 2016年）
6. 『たのしいことば ぱくぱくしゃかしゃか』 山岡ひかる（ひかりのくに 2018年）
7. 『ぎゅぎゅぎゅのぎゅー』 森あさ子（ひかりのくに 2019年）

である。題名に擬態語や「音」がついているものを選

⁵ 子ども学ゼミC受講の学生には、本報告に学生たちの

感想・意見・創作を匿名で掲載する旨の了解を得た。

んでいることがわかるが、内容を読んでの紹介では、

A：ひとつの音でいろいろなものを表現する。

- ・同じオノマトペが使えるものや状態を紹介していく (1)。
- ・「ピンポン」をきっかけに、いろいろな訪問者をシルエットから想像していく (4)。

B：いろいろな音で、一連の行為・動作を紹介する。
(3・6)

C：いろいろな音でいろいろなものを紹介する。

- ・生き物の特徴を音で表し、鳴き声がなくても音で動物を紹介していく (7)

などのパターンがあることに気づいていった⁶。

それぞれ、自分の選んだ本を読みみかせたので、それを聞いた学生の感想は、次のようであった。

学生1：様々な絵本に出てくる音を見て、絵本によって表し方が違ったり、一つの動きでも様々な音で表されていたりと面白く思いました。読むときに子どもが興味や楽しさを感じられるように、音に気持ちを入れて読むことが大切であると思いました。

学生2：いっしょの動作をしても効果音が様々だったり、ひとつの音だけで連想させたり、本を見る相手が赤ちゃんの場合だと強弱をつけて読むと伝わりやすくなるんだと分かりました。日常生活の音が絵本に現れるのもあり、見ていておもしろいと思いました。

学生3：今日みんなの選んだ音の絵本をきいてみて、絵本に音は必須だなと改めて思いました。音があるだけでとてもイメージしやすく、想像力が豊かになるなと思いました。

学生4：みんなが選んだ音が出てくる絵本を見るのはとても楽しかったです。同じ音でも違うものを表現していたり、音を使うことでよりわかりやすく物事を表現できていたり、音の効果はすごいなと思いました。子どもたちも絵だけじゃなくて、絵本に音があれば出てくる動物や物事を想像しやすくなると思うので、もっと絵本を楽しめると思いました。

学生5：色々な音が学べて楽しかったです。この音はこんな音で表現されてるんだとか、ひとつの事に対して色々な音があったりして面白かったです。自分で音を考える参考にしたいです。

下線の部分はA～Cの違いの発見であり、それに対して二重下線ではその効果について考え、「絵本に(効果)音は必須」「音に気持ちを入れて読むことが大切」とオノマトペの重要性に気づき、音をA～Cのパターンを使って取り入れたお話づくりに発展していった。

お話づくりに、イメージのもてない学生には、鬼ごっこの変形「あぶくたつた」を紹介した。Aのパターンの例となるが、「とんとんとん、なんの音」と問いか

け、「風の音」、「あーよかつた」、

「とんとんとん、なんの音」…を繰り返し、最後は「お化けの音」、「きゃー」と逃げる。鬼ごっこを始めるわらべ歌である。

「あぶくたつた」は、第一部からオノマトペが楽しいわらべ歌であるが、第三部といわれる鬼ごっこへの導入は、いくつかのパターンがインターネットなどでも紹介されている⁷。これらを紹介し、視聴した上で、もっといろいろなバリエーションがつけられるはずという課題を出し、「同じ音」からいろいろな現象を想像する楽しさを体験させた。

その結果、「おふろ だいすき」(風呂場のいろいろな音を集める)、「じゃあ じゃあ じゃあ」(ハンバーグができるまでの音を集める)、「くまさんのおたんじょうかい」(誕生会に集まるいろいろな動物を鳴き声で紹介する)、「うさたむの一日」(ウサギの生活の音を集め、なんの音か問いかける)、「ピーマン いやいや」(ピーマン嫌いの男が好きになるまでの物語に効果的に音を入れる)、「おやすみ あみちゃん」(女の子のお昼寝に現れるものの音を集める)、「おべんとう」(おべんとう作りの音や食材の音を集める)、「なんのおと」(雨降りの日の音と訪問者の声を集める)など、変化に富んだお話づくりができた。

昔話の多様性を学び、オノマトペ絵本を知り、創作することで、「音」の大切さや、読み方の重要性に気づくことができたことは、良かった点である。

学生には、昔話は、同じストーリーであるが、細部はさまざまに異なることを知り、昔話の語り口を伝える絵本を選べるようにもなって欲しいと考えている。

今回は、「ももたろう」絵本のオノマトペの多彩さを知ることで、自然に「かわいい絵柄」に囚われず、語り口の優れた絵本を、子どもと読みたい絵本として選び取っていった。

譜につながる楽しい絵本である。

⁷ <https://www.youtube.com/watch?v=6gl6aXOYL5o>

⁶ 因みに、5は、「びりびり」でちぎりを促す造形遊びの絵本で、2は、トラクターの「どどどどど」が音階に、五線

よりよい絵本選びのために、絵本体験をどのように重ねればよいか、今後とも考察していきたい。

5. 参 考

ゼミの中で創作した学生の二例を紹介する。

「おふろ だいすき」
おふろおふろ だいすきなおふろ
ちゃぶちゃぶちゃぶ
あーたのしい
きれいにあらおう
ゴシゴシゴシ
あわあわでたよ
もこもこもこ
さあさあ流すよ
ジャージャージャー
からだをふこうね
きゅっきゅっきゅっ
クリームぬろうね
ぬりぬりぬり
パジャマにきがえて
あ〜すつきり
おふろおふろ だいすきなおふろ
たのしかったね

「くまさんのおたんじょうびかい」
今日はくまさんのおたんじょうび。
森のみんながそろそろくる時間。
トントントン だあれ？ ワンワン いぬさんだ！
トントントン だあれ？ メエメエ ヒツジさんだ！
トントントン だあれ？ ピョンピョン うさぎさんだ！
トントントン だあれ？ ピョピョ ヒヨコちゃんだ！
トントントン だあれ？ ウヒヒーン うまくんだ！
トントントン だあれ？ パオーン ぞうさんだ！
おうちに入るかな。。
これでみんなそろったね。
くまさん、おたんじょうび おめでとう！！

おふろに入る流れの中で出てくる楽しい音をいろいろ集めたり、「トン トン トン」で導かれるいろいろな動物の鳴き声で場面の音に変化をつけたりして、絵本で学んだことが活かされた創作になった。

6. 参考文献

- ・生田美秋・石井光恵・藤本朝巳『ベーシック絵本入門』ミネルヴァ書房・2013年
- ・『認定絵本士養成講座テキスト』絵本専門士委員会
・2020年

ピアスーパーバイザーからのコメント

本論文は生徒の発した言葉から、「絵本の昔話におけるオノマトペとお話づくり」を研究されている。教育活動の中で「これはなぜだろう？」と、主体的に学びを始めた学生の気持ちをくみ、研究の中で調査、創作をしているのである。多くの教員が共有すべき知見であると思われる。より多くの先生にご理解いただけることを願っている。(担当:今津香)